

2021 活動報告 ジャパンデータリポジトリ ネットワーク (JDARN)推進部会

JDARNの設立目的

**よりよい研究データ
管理と運営がわかる
専門家集団を目指し
ています。**



現在のメンバーは約25名

1. 国内にあるデータリポジトリの信頼性を国際的に期待されている水準に高める。
2. データリポジトリへの要求の多様化に対し、共通の課題を議論する。
3. データリポジトリコミュニティを作る。

2020年までの主な活動

1. **2017年10月:**
「国内の分野リポジトリ関係者のネットワーク構築」小委員会として設立
2. **2017年12月:**
CoreTrustSeal(CTS)を使ったセルフアセスメントを試みるワークショップを開催
3. **2018年2月～9月:**
CTSの日本における適用可能性を議論
⇒データリポジトリに要求される項目を「アイテム」としてCTSから抽出
4. **2018年10月:**
「ジャパンデータリポジトリネットワーク(JDARN)」小委員会として再始動
5. **2018年10月～2019年3月:**
上記「アイテム」を基に「研究データリポジトリ整備・運用ガイドライン」として必要な内容を整理・議論
6. **2019年4月～:**
リポジトリ関連の勉強会やミーティング等

これまでに作成したJDARNの成果物は、

https://japanlinkcenter.org/rduf/about/index.html#s004_0

から公開しています。



研究データリポジトリ整備・ 運用ガイドライン

JDARNで作成した原案が採用され、**2019年3月**に
内閣府「国際的動向を踏まえたオープンサイエンス
の推進に関する検討会」の文書として発行

- **2018年10月**：上記検討会（第7回）で途中経過を発表
<https://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/kokusaioopen/7kai/7kai.html>
- **2018年12月**：内閣府と合同でワークショップを開催

研究データリポジトリ整備・運用ガイドライン

平成 31 年 3 月 29 日
国際的動向を踏まえたオープンサイエンスの
推進に関する検討会

1. 研究データの保存・公開とデータリ
ポジトリの整備・運用
2. 研究データリポジトリの定義及び役割
3. FAIR原則
4. 信頼できる研究データリポジトリの整
備・運用に関する要件

<https://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/kokusaioopen/guideline.pdf>



2021年を振り返って

● 世界の動向

- OECDがオープンサイエンスのレコメンデーションを改訂
- UNESCOがオープンサイエンスのレコメンデーション（ドラフト）を作成

● 日本の動向

- 6月：「総合イノベーション戦略2021」公開
各大学・研究機関におけるデータポリシー策定が義務付けられる

● JDARNの活動

- 2月：RDUF JDARN部会として再始動
- 6月14日
JOSS2021でセッション
「研究データ公開その後：データの利活用状況をどう把握するか？」を開催

セッションE1：2021年6月14日 10:00-11:30

研究データ公開その後：データの利活用状況をどう把握するか？

How to track the use of open research data?

オープンサイエンスの流れにより、研究データの公開が進む中、公開されたデータの利活用状況を正確に把握することの重要性とその課題を取り上げたい。まずは講演形式で、これまでの経緯や現状整理、研究現場における取り組み状況等について報告する。その後、パネルディスカッション形式で、見えそうなノウハウの共有や、今後のあるべき方向性についての議論を行う。

- ・ 趣旨説明：データ利活用状況の把握がなぜ大切か？ ： 白井 知子（NIES）
- ・ 研究データのインパクトを計測可能に～データ引用とMahaloプロジェクト～：北本 朝展（NII）
- ・ データ引用状況把握の試み ―地球科学分野の事例―：福田 和代（JAMSTEC）
- ・ 学術検索基盤CiNii Researchを通じて研究データ公開の意義を考える：大波 純一（NII）
- ・ パネルディスカッション（40分）：講演者＋能勢 雅仁（名大）＋池内 有為（東洋大）

セッションまとめ

リポジトリ

データ提供者

データ利用者

バランス

データ引用

引用情報の収集

手動（マニュアル）

引用者には新たな負担

自動

教育（特に若手への）は有効かも

データ間の引用（論文を挟まない）はどうすればできる？

ジャーナルのデータポリシーの影響大

引用なしでデータが使われる懸念

従来のままの引用方法で良いのか？

データ識別子

どれを使う？

URL

データ名

リポジトリのID

DOI

付与するには一定のノウハウが必要

分野における標準

それぞれ異なる

トップダウンで決まる

ボトムアップで決まる

取り扱いがデリケートなデータ

無制限に公開されていなくても識別子をつけてメタデータを公開することはできる

データの利活用

派生データの方がオリジナルより目立つ場合も

自動で追跡したい

評価

データ提供者の貢献

リポジトリの貢献

オリジナルデータの貢献

リポジトリリストの検討

• 背景

- 研究機関やコミュニティにおいて、どのような条件を満たすリポジトリにデータを寄託すべきかをポリシーとして策定したい
- どのリポジトリがどのような条件を満たしているか知りたい
 - CoreTrustSealも条件の1つだが、全てではない

• 現在の状況

- 主な利用者像（ペルソナ）の検討
 - データを登録したい研究者
 - 助成者にリポジトリを推奨したいファウンダー
- JaLCの会員リストをもとに検討中（次ページ）
- 項目はre3dataのメタデータを参考に検討中

作成中のリスト（一部）

コンテンツ名	URL	運営機関
生命科学系データベースアーカイブ	https://dbarchive.biosciencedbc.jp/	JST バイオサイエンスデータベースセンター
GlyCosmos	https://glycosmos.org/	創価大学 理工学部 糖鎖生命システム融合センター
ICSU-WDS事業関連コンテンツ	https://isds-datadoi.nict.go.jp/wds/	国立研究開発法人 情報通信研究機構
地球環境データベース	https://db.cger.nies.go.jp/portal/	国立研究開発法人 国立環境研究所
DIAS	http://diasjp.net/	国立情報学研究所
国立情報学研究所 機関リポジトリ	https://repository.nii.ac.jp	国立情報学研究所
JAMSTECが保有する観測航海情報等	http://www.godac.jamstec.go.jp/catalog/data_catalog/j/	国立研究開発法人海洋研究開発機構
宇宙科学データベース	https://darts.isas.jaxa.jp/	国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所
Materials Data Repository	https://mdr.nims.go.jp/	国立研究開発法人 物質・材料研究機構
文部科学省 科学技術・学術政策研究所 ライブラリ	https://nistep.repo.nii.ac.jp/	文部科学省 科学技術・学術政策研究所



他のコミュニティとの連携

- JPCOAR
 - ワークショップ：機関リポジトリへの研究データ登録
 - 12月開催予定
- RDUF小委員会・部会
 - データ共有・公開制度検討部会
 - 研究データへの DOI 登録促進小委員会

入って良かった？JDARN

- 神谷信武（チューリッヒ大学 司書）
 - JDARNに入って、RDMに関して気さくにはなしができる機会ができました。またRDM関連の日本での動向も実務でRDMに携わっている人からお話がきけるのでありがたいです。
- 福田和代（海洋研究開発機構）
 - 分野を超えたりポジトリの共通の課題、国際・国内動向について情報共有ができる貴重な場になっています。
- 白井知子（国立環境研究所）
 - 所属機関の中だけでは解決しない現場の課題や、自分の知識や理解が足りない分野について、気軽に相談・議論でき大変有難い場です。

仲間を募集しています

- JDARNでは各分野のリポジトリ関係者が集まって様々な議論を重ねています。
 - 地球観測
 - 環境
 - 情報
 - 物質・材料
 - 生命科学
 - 海洋
 - 情報通信
 - 地質
 - 人文学
- 研究データリポジトリの運営に関心があれば、ぜひJDARNに参加しませんか。
 - JDARNに参加するには、まず下記フォームからRDUFに入会を申し込んでください。
https://form.jst.go.jp/enquetes/jalc_rduf_admission
 - 既にRDUF入会済の方は、下記アドレスまでご連絡ください。
rd-repository@mr.jst.go.jp